

## IAUD Newsletter vol.13 第 8 号(2020 年 11 月号)

1. 手作りマスクを寄付した中学生滝本妃(ひめ)さんに聞く..... 1
2. 「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」申込受付中..... 5
3. IAUD11 月の予定..... 5

### 本当にマスクを必要としている人に届けたい 手作り布マスクを寄付した中学生滝本妃(ひめ)さんに聞く



手作り布マスクを寄付した中学 2 年生の滝本さん

新型コロナウイルス感染拡大でマスク不足の深刻な状況を危惧した山梨大学教育学部附属中学校 2 年生 滝本妃(ひめ)さんは、お年玉で材料を買い手作りした約 900 枚の布マスクを山梨県庁や山梨大学医学部などに寄付しました。

IAUD は滝本さんの素晴らしい、思いやりのある行動を多くの方に知っていただきたく、弊協議会ホームページ及び海外の関連団体にご紹介したところ、WHO(世界保健機関)関係者など国内外から大きな反響がありました。

滝本さんの行動に感動した IAUD の高橋陽子評議員(日本フィランソロピー協会理事長)は、8 月 22 日(土)に山梨県甲府市のご自宅を訪ね、滝本さんとお母様の暁海さんに話を伺いました。

今号の Newsletter では、当日の様子について高橋評議員が報告します。

※滝本さんの取り組みを紹介した HP の記事は[こちら](#)をご覧ください。

## コロナ禍で自分にできることはないか

滝本さんがマスク寄付を思い立ったきっかけは、2020年2月に薬局に行った時。一人の年配の女性がマスクが売り切れで困っていて、店員さんに「何軒も歩き回って来たのに、ここにもないんですか」という、がっかりした声を聞きました。

ニュースでもマスク不足で転売が増えている、と言っていたことを思い出し、「自分にできることはないかな」と考え、布マスクを作ることを思い立ちました。

裁縫は苦手だったけれど、みんなのために作ってみようと決心した滝本さん。お母さんに手伝ってもらいながら、市販のマスクから型紙を取って色々作りながら試し、これなら苦しくないというものから型紙を取りました。

そして、期末テストが終わった2月26日の夕方から縫い始め、手指を消毒しながら一人でひたすらミシンに向かいました。

春休み中もずっと作り続け、1日に30枚以上も作った日もあったそうです。

## お年玉を費用に苦手なミシンで手作り

材料費は、普通に考えるとご両親が用意してあげて、、となりがちですが、滝本さんは生まれてからずっと貯めてきたお年玉8万円を下ろして買いました。

これまで一度も下ろしたことがなかった自分の貯金を使いたい、というのですから、その本気度が伝わってきます。

作り始めた当初は、駅前などでマスクを配ろうと考えていましたが、ウィルスの感染拡大で、衛生を考慮するとそれも叶わない状況になってきました。

そこで、山梨県庁に寄付先を相談すると、長崎幸太郎知事が受け取ってくださることになり、3月17日に県庁に赴くことになりました。

「山梨県の人口に比べればまだまだ足りないと思って、1枚でも多く届けたかった」と、当日も直前までミシンに向かっていたため、大人用400枚、子ども用212枚、合計612枚という半端な数字になったというわけです。

マスク一つひとつの袋には、「この1枚が皆様のお役に立ったら嬉しいです」という滝本さんのメッセージが添えられました。

寄付したマスクは、山梨県庁から高齢者施設や児童養護施設に届けられました。



滝本さんが寄付したマスクとメッセージ

## 中傷を乗り越えマスク作りを再開

滝本さんが手作りマスクを県庁に寄付したことは、マスコミに大きく取り上げられました。新型コロナウイルス感染拡大の真っ只中での、他者を思いやる心温まるニュースでした。

一方、心ない中傷もありました。SNS上で、「布マスクは効果がない」「本当に自分で作っているのか」「売名行為では」などと書いている人たちがいました。

滝本さんは、「助けたいという思いだけで始めたけれど、自分のやった事は間違っていたのか」と悩み、1週間ほどミシンが使えなくなってしまいました。

そんな時、山梨大学から学長賞授与という嬉しい連絡がありました。

そして、3月24日の学長表彰当日に、島田眞路学長から医療現場でもマスクが足りないことを聞き、一番必要なところにマスクがなかったことを知ってショックを受けました。

一方、山梨大学医学部付属病院長でもあった学長が、「布マスクは医療現場にも必要だ」とっており、自分のしたことは間違っていない、と元気づけられもしました。

そこで、今度は医療現場にマスクを届けたいと、抗ウイルスガーゼを使った250枚のマスクを作り、4月15日に山梨大学医学部に寄付しました。

落ち込んで、悩んで、そしてしっかり考えて、再び、滝本家にミシンの音が復活しました。

思い切って行動したことで嫌な経験もしたことを、滝本さんは、「この世の中には褒めてくれる人もいるけれど、ひどいことを言って傷つけようとする人もいるんだなど知りました。気にしても仕方がないし、自分の成長になるから、中傷した人には感謝をしなくてはいけないと思います」と、振り返っています。

## 思いやりのある行動の広がり

さらに、「ぜひマスクの作り方を知りたい」という多くの声に応え、材料(布、ゴムひも、型紙)と作り方をセットにした手作りキット1104個を、5月18日に山梨県教育委員会に寄付しました。作り方は日本語と得意の英語で丁寧に書かれています。

キットは県立高校に配布され、高校生たちがマスクを作って、社会福祉施設などに寄付しました。

また、滝本さんの行動を知った中学生や高校生たちが、自分たちでマスクを作って福祉施設に寄付したこともあったそうです。

一人で始めた活動が、他の学生にも影響を与えました。滝本さんは、「自分一人の力では限りがあるから、みんなが動いてくれることで、もっと広がればいいな」と言っています。

## 全国から激励メッセージ

滝本さんには、日本中から応援や感謝のメッセージが届きました。寄付の広がり、そして批判も含めての中傷、賛否両論、いずれもまっすぐに受け止めて、自分の信じることに向き合った滝本さん。

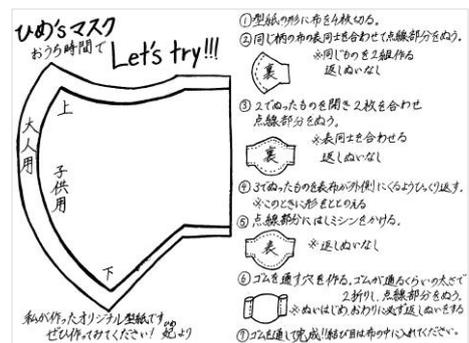
特に心に残るメッセージを伺うと、「わたしが卒園した、イングリッシュスクールの幼稚園児からの手紙です。そこにもマスクを寄付したのですが、いろいろな柄の布を使っていたので、子どもたちが、この柄を選んだよ、すごくかわかったなどと、英語で書いてくれました」。



学長賞を授与された滝本さんと島田学長(山梨大学提供)



手作りマスクを山梨大学医学部に寄付する滝本さん(山梨大学提供)



滝本さん手書きのマスクの作り方

また、「トロフィーや感謝状もいただきました。トロフィーには、『あなたの清らかな心と行動に感動しました。一市民より』と彫り込まれていました」。

他にも、全国から図書カードやお金など約 32 万円が滝本さん宛に山梨県庁や学校に送られました、それらは、県庁福祉課から児童養護施設や里親の家庭などに寄付してもらいました。

こうした寄付に、滝本さんは手作りマスクを添えて、「私は両親がそろって不自由なく暮らしているので、恵まれない子どもたちのために寄付させてください」という返事を書いて送っています。

マスク作りを通しての様々な反応は、滝本さんをひとまわりもふたまわりも成長させたようです。



贈られたトロフィー

## 将来は英語のできる外科医に

滝本さんは、学校ではベルマークや書き損じハガキ、古切手、ペットボトルのキャップなどを集めるヴォランティア活動をしています。そういう身近なヴォランティアを、積極的にやっていきたいと言っています。

将来は、「外科医になります」ときっぱり宣言してくれました。これは、幼稚園の年少の頃からの夢で、日本に来る外国人のために、英語で詳しく病気などの説明ができる医者になりたいのだそうです。

マスクを寄付をした山梨大学医学部附属病院の先生たちからのお礼の色紙に、「いつかいっしょに仕事をしましょう」というメッセージが書いてあり、「すごく嬉しかったです」と言う滝本さん。

医療現場への寄付には、病院の清掃スタッフなどのマスクも含まれていました。医療関係者、というと医師や看護師を思い浮かべますが、滝本さんは、「病院に行ったときに、お掃除をしている人たちだってマスクが要ると気付きました」。人を思う心に加え、観察力と想像力も備わっている滝本さんに脱帽でした。

傍らのお母様に教育方針を伺うと、「感謝の心を持つこと」をずっと言い続けていたとか。滝本さんは寄付が好きで、コンビニのレジ横にある募金箱に1円玉を入れるのが楽しみだそうです。

「人が喜ぶことが好きで楽しい」という滝本さんを見ていると、これからの成長がますます楽しみにになりました。



山梨大学医学部附属病院からのお礼の色紙

## SDGs 教育に活かして

全国の中学校では、2021 年度から学習指導要領に「SDGs(持続可能な開発目標)教育」が取り入れられることになっています。

しかし、滝本さんの行動が学校での SDGs 教育に影響を及ぼすにはまだ至っていないようです。

滝本さんの行動を「いち中学生の美談」として終わらせることなく、学校現場でもこれをきっかけに新たな SDGs 授業の展開に活かしてほしい、と切に願っています。

そして、まっすぐな利他の心で多くの人に感動を与えた滝本さんに、感謝とエールを送りたいと思います。



## 在宅で好きな時に UD 資格習得 「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」申込受付中

IAUD は「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」を実施します。  
「オンライン UD 検定・中級」は、力試し問題と UD 検定・中級試験(70 分・129 問)を受けていただきます。

試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」(A4 判 263 ページ)に準拠して出題します。

受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に検定試験をお受けください。

力試し問題と検定試験は、実施期間中であれば時間・場所を問わず受けていただけます。合否は終了後すぐに判定されます。

合格基準は総合得点 70%以上で、合格者には「UD 検定・中級 認定証」を発行します。

申し込み受付は 12 月 15 日(火)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」申込みは[こちら](#)をご覧ください。

※公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」ご購入は[こちら](#)をご覧ください。



中級受験に必須の  
公式テキストブック



## 2020 年 11 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
2	3 文化の日	4	5	6	7	1/8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 14:50~ 衣の UDPJ オンライン会合	20	21	22
23 勤労感謝の日	24 16:00~ CM 字幕 PJ @GroupIMD	25	26	27	28	29
30						

※新型コロナウイルス対策のため政府より不要不急の外出の自粛が要請されていることを受け、IAUD では研究部会等の行事開催を一部見合わせ及びオンラインで実施しております。

次号は 12 月上旬発行予定

特集:CM 字幕 PJ 第 6 回字幕付き CM オンラインセミナー参加報告/IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑨ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会  
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110  
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net